

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	雪荷重小委員会	主 査 名：高橋 徹 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 荷重運営委員会	委員長名：中島正愛 主 査 名：河井宏允
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築物に係る雪荷重の実態を調査研究する。</li> <li>・ 建築設計時に考慮すべき雪問題についても広く情報を収集する。</li> <li>・ 上記知識の体系化を図り、もって建築物の質の向上に資する。</li> <li>・ 2010 年度：収集した情報を分析し、設計者のためになる情報に加工して取りまとめ、出版物として刊行する。</li> <li>・ 2011 年度：刊行された書籍を用いて講習会や PD などを開催する。</li> <li>・ 2012 年度：2014 年度に予定される荷重指針改定に向けた検討を行う。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：高橋 徹 (千葉大学) 幹事：堤 拓哉 (北方建築総合研究所) 委員：和泉正哲 (大崎総合研究所)、老川 進 (東京大学)、岡田 恒 (日本住宅・木材技術センター)、小坂橋裕一 (日建設計)、小竹達也 (大成建設)、桜井修次 (北海学園大学)、佐藤 威 (防災科学技術研究所)、苫米地 司 (北海道工業大学)、富永禎秀 (新潟工科大学)、中島 肇 (清水建設)、前田博司 (福井工業大学)、三橋博巳 (日本大学)、三橋博三	
設置 WG (WG 名：目的)	建築物の雪害リスクマネジメント WG (2009 年度～2010 年度) 建築物に関わる雪害の実態を把握し、建築物に関わる雪害を軽減するための設計資料の構築を分担する。 雪荷重改定調査 WG (2011 年度～2012 年度) 2014 年度にも予定されている建築物荷重指針改定を睨み、直近 10 年間の研究成果や海外動向を調査・整理し、指針改定のためのデータ整理、追加の実験や解析の必要性などについて検討を行う。	
2012 年度予算	270,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s25/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 国内外の直近 10 年間の研究動向を整理し、現行荷重指針の問題点を整理するとともに章立てを決め、執筆に取りかかっている。 2. 2013 年寒候期も 3 年続けて豪雪被害が出ている。被害例の収集に努めるとともに、荷重の把握に努める。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会の性格上地方在住者が多く、規定どおりの旅費を支給すると委員会開催 1 回で予算を使い切ってしまうため、出席者の偏りがみられ始めている。遠慮なく参加してもらえるように配慮したい。